



組織力強化の一環として情報保証、情報セキュリティの専門知識と能力を習得するために国際標準のCISSP認定資格は最適です

防衛省 海上自衛隊

資格取得推進のポイント

- **経営課題・ビジネス背景**
情報流出等の不祥事を背景に情報セキュリティに関する社会の意識や要請の高まりを受けて、組織力強化の一環として国際的に通用する専門資格取得の必要性が強まる。
- **導入目的**
組織力強化の一環として、システム開発に携わる者が階級ではなく、情報セキュリティに関する知見と能力を対外的、国際的に示せる資格が必要であった。
- **導入プロセス**
業務に関係する専門知識の自学習や公的資格取得をベースに、CISSP10ドメインレビューセミナーを受講した。
- **取得効果**
情報セキュリティの専門家たちとの人的ネットワーク構築ならびに知識習得の機会増加と共にスキルセットの充実が図れ、現場業務の明確な判断基準として活用できた。

四方を海に囲まれた島国である日本に対する脅威は常に海を経由してきます。同時に資源の乏しい日本は国民生活の基盤となる物資の殆どを海外に依存しており、その9割以上が世界中に広がる海上輸送網を利用しています。かかる「海」の安全を守る重要な役割を担っているのが海上自衛隊です。海上自衛隊においても情報保証、情報セキュリティを強化することは国防そのものに直結します。海上自衛隊において情報システムの開発及びソフトウェア維持管理を担う、開発隊群指揮通信開発隊の3等海佐 齋木 康博氏ならびに海上自衛隊のシステム通信全体の運用を担うシステム通信隊群司令部の1等海尉 友川 健氏の二人にご登場いただき、CISSP資格の取得に至った背景や現場の業務にどのように活用しているのかを語っていただきました。

組織における情報保証強化の観点から、国際的評価の高いCISSPは有用な認定資格

(齋木氏) 私は平成20年3月にCISSP資格を取得しました。当時は情報流出など情報保証に関する不祥事が民間企業などでも頻発しており、情報保証、情報セキュリティに関する社会的な関心が高まっていた時でもありました。私は当時、航空プログラム開発隊に所属しており、上司からCISSPの存在を知らされ、受験するよう勧められたのが資格取得の契機でした。この部門はその名称の通りシステムを開発しており、その職務を全うするためにも情報保証や情報セキュリティが重要であるとの認識は自分自身でも持っていましたので、与えられた好機を活かそうと受験することを決断しました。もちろん海上自衛隊としても組織として情報分野に関する国際的な資格取得の必要性を認識しており、上司が最適な資格について広範囲にわたって調査した結果、CISSPにたどり着いたと聞いています。その折に意欲のある若い人材に遭遇し、将来ある若い人材

情報セキュリティ分野の多数の専門家との人的交流から得られる恩恵は計り知れません

(齋木氏) 私も友川1等海尉も時期は違いますが5日間のセミナーを受講してから受験に臨み、初めての挑戦で合格できました。講習や受験にかかる費用は海上自衛隊に負担いただきました。私はもともとシステム開発をしていましたし、公的な資格など何らかの

に専門能力を習得する機会を与えようとの思いが上司にあったために実現できたことだと理解しています。その後、一旦はシステムや情報セキュリティとは直接関わりのない部門に異動した後に、現在は海上自衛隊のC4Iシステムを構築する部隊に所属し、システム開発や維持管理業務の中でCISSPの知見を活かして、業務に取り組むことができています。(友川氏) 私は平成22年10月にCISSP資格を取得しました。当時、原隊の情報保証班長として従事しており、そのときの司令がCISSPではないのですが、国際的な評価に耐え得る資格、CIA(公認内部監査人)、CISA(公認情報セキュリティ監査人)CISM(公認情報セキュリティマネージャー)を取得していました。職位ではなく、能力を対外的に示せるものが必要であり、そのひとつとして私の場合、群司令に勧められCISSPを取得する機会に恵まれました。

専門資格取得の必要性を感じ、自学習していました。CISSPは技術だけでなく、コンプライアンスなど法律的知見など枠組みが広く、さらに国際的な資格でしたので取得する価値があると判断したわけです。

CISSPホルダーが組織内の評価される側に配置される仕組みが構築されることにより、情報セキュリティにおけるスキルアップの連鎖が創出され、組織力強化につながる事が理想です

海上自衛隊
開発隊群指揮通信開発隊
3等海佐
齋木 康博 氏

海上自衛隊
システム通信隊軍司令部
1等海尉
友川 健 氏



CISSP資格取得による効果としては、自衛隊内にいる時には知り合うことができなかった部外の情報セキュリティ分野の専門家の方々とのつながりなど人的交流が生まれたことの恩恵は計り知れません。セミナーなどの勉強会に積極的に参加したり、ボランティアでCISSP等の試験官を担当したり人的交流を深める中で得られる技術やノウハウなどの知識流通が現場の業務にも通じることが多々あり、非常に役立っています。具体的には自衛隊内での評価というよりは自分自身のシステム開発の要件設計などに活かしています。CISSP取得以前ですと限ら

れた知識の範囲内で民間企業と協力してシステムの要件設計をしていましたので自分自身の判断が正しいかどうかの判断が困難でしたが、取得後は自分自身の判断に自信が持てるようになりました。また、海上自衛隊では民間企業の協力を得ながら諸外国における情報戦に関する調査研究を行っており、その報告書の中でも情報戦に関わる人材にはCISSP資格取得が必要であることが明確に提示されるなど国内外でのCISSPの評価は高まっているのではないのでしょうか。

CISSP10ドメインによりスキルセットの充実が図れ、現場業務にも直接的に活用できました

(友川氏) 私の場合、現在所属しているシステム通信隊群司令部はITサービスプロバイダーを標榜しており、情報保証担当かつ班長の立場にある私が試験に落ちるわけにはいかず、なおかつ先ほど述べたように群司令の指示による公務でもありましたので、非常に高いモチベーション状態で講習や試験に臨むことができました。私は国内の公的資格であるIPAの情報セキュリティ・スペシャリストとネットワーク・スペシャリストの資格を既に取得していましたし、実際の業務と直結したことであったので、CISSPの7割程度の範囲は既に知見としてある程度備えていました。かかる土台の上で、講習に参加しましたので、自分自身の知見をチェックしてもらうような形になりました。このような積み重ねた準備がなければ講習参加だけで試験に合格するのは困難だと思います。CISSPホルダーであることによる人的ネットワークとともに、“窓が開かれている”感覚を抱きました。国際評価に耐え得る資格であり

ますし、本場米国と直結している印象が強く、英語が苦手な私が情報セキュリティに関する英語の文献などにも関心を持てるようになりました。CISSPが要求するスキルは10ドメインと広範囲にわたっているので、自分自身の強い分野、弱い分野あるいは何が不足しているのかが明確になり、スキルセットの充実が図れました。このことは現場の業務においても直接的に活かせる内容でもありました。海上自衛隊の職務として私が所属するシステム運用全般を担っているシステム通信隊群は、情報セキュリティの専門能力が明にも暗にも関係してきますし、CISSP資格取得が今後も必要となるでしょう。私の場合、群司令の勧めもあって、資格取得できましたが、第三者評価としての国際的な資格取得等に対する理解があり、自らも率先して専門資格を取得されていましたので、情報セキュリティの重要性を訴える自分のような人間の上司がこのような有言実行であることを私は大変好ましく思っています。

今後ますます専門知識と能力が必要とされますので、引き続きCISSP資格取得を推進します

(齋木氏) 米国のシステム開発者と直接調整することは少なく、現場の運用者であることがほとんどのため、CISSPホルダーと接する機会はありませんでした。私の知っている範囲で言えば、横須賀海軍基地の軍属(軍人ではないが軍の仕事に従事している民間人)にもCISSPホルダーが2人いました。今後はわが国においても米国同様にCISSPのような専門知識と能力がより一層必要とされ、認識されるだろうと私は予測しています。事実として指揮通信や航空プログラムなどの開発部隊では、既に認識を深め、必要性を感じています。現在のように個人に紐づくのではなく各部門にCISSPホルダー

が配置されるのが望ましいと思います。可能であれば日本においても職種といわないまでも「この部隊にはこういうレベルの人員が何人必要」という仕組みを構築できれば良いと思います。今後の期待としては組織としての必要性を感じていますので、予算の範囲内になりますが、引き続きCISSP資格を1,2名取得させる方向で考えて頂ければ良いと思いますし、継続して取得する資格の一つとして位置づけられれば良いと思います。今までも相当数の自衛官が資格試験に挑戦していますが、残念ながら合格した人はまだ少ないようです。能力や職域の問題などもあります。自分以外の人にもぜひ取得して欲しいし、取得させたいと思っています。

